

Eld: KOU MUKAI

2-12-2 ASAHIMACHI, ABENO, OSAKA, JAPAN

15, Feb, '81 No. 245

通信 向井 孝

大阪市阿倍野区旭町2-12-2

向井 孝

▼一月二日は、不払い連新春初行動ということとで、和歌山市へ参征した。人口30万とか、なのに大阪とは比べようもなく、つまり大阪の方が異常なだけ、ガラシとしている。南紀和歌山営業所で一通さわぎしたあと一番にヤチカという南海電鉄の駅本場へ出向いたが、午後の薄日がしらく、鋪道をたづね、ひっそりひろがっているだけ。空つ風が五体にしみておった。でも、マイクが、ずうっと向うまで、おどろくほどよく透り、みんなが、いんと店の奥で聞いている感じで、なまぐいいキモチのもの（たまに人影がほらばらっとして、ア、近づいてきたーと思つたら私服サン。あまりほくらみたりのを扱い慣れてないらしく、とつつきは強硬だが、話しかけるとおぼろし、そのうち紀州弁がとび出したりして、ちょっと悪態がアツタ）

▼二三日午後から上京。水道橋での大逆事件七〇年集会に参加した。

# 何がなんでも「ごんごん」な場合でも「ごんごん」か

① 昨年の日ごろ、「死刑をなくそう地球から」というアムネスティの呼びかけで、「死刑制度廃止の署名あつめをした。ほくのつもりでは、「死刑制度廃止なんて当然のこと」で、気安く、誰もがやってくれるやろ。」と思つてたのが、「ごんごん」でない。三里塚やX事件にかゝりつづける人でも、いやーと断つたわりのして、この意外さにはびっくりした。それで「昨年11月？」ごろ「ごんごん」と記憶がアイマイだが、新聞に出た総理府の、かゝごんごんの「死刑制度」といっての否論調査で、廃止派の%が、すくなくいには、あまりおどろかぬかつた。しかし、「ごんごん」場合でも「廃止か」という前置きをつけると、「死刑制度」「存置」が、圧倒的多数になるのは「へー、やっばり。うまいこと操作しよるな」と言うほかなかつた。だが、この「ごんごん場合でも」と、たゞ否論操作の小細工とはかり軽視することは決してできない。むしろ「死刑制度廃止運動」の根柢に、かゝり、その成否を左右するものであることに於て、まず「ごんごん」自身につきつけられた問いであり、ある意味での路筋だからである。



そして、「誤解されるのをおそれずになんか～」の「ごんごん」場合でも「反対か」という問いは、①での「ごんごん」場合でも「死刑制度反対か」に通底し、その意味で、「反対運動」の根柢に、かゝり、その成否を左右するものだ、とほくは思ふわけなのだ。（ここで見解をすらすらと書きまわすみて下さい）

② まったく話が飛躍するようだが、ヨーロッパの女性団体から広多さんへ反原発グループの「ごんごん」と女と反戦国際行動週間のよびかけがきた。「よしやろ、大規模な実行委をつくつて」と連日ふうふう、るりろはくら何人もがあつたり、電話したり、印刷を手合けてつくつたりするのを見ながら、ほくは、さすがは女たちと横で感じしているわけだが、そのはじめの下相談の会（実行委の呼びかけ人30数人？集ったとか）が、月末にあつた。

③ 女と反戦国際行動週間のよびかけの中心、反原発グループの正式の名まえは、何がなんでも「ごんごん」反対する女たちの「ごんごん」グループというのだが、その、何がなんでも、ということが、過敏？すぎるとか云われ、何かが物議をかよすことがあつた。あまりにも極端で感情的、また非科学的に偏した立場をあらわしている、というわけだ。

④ 「死刑廃止」の是非を論ずるとき、やはり同じような二つの立場がある。

つまり、死刑を執行する側の立場（あるいは検査）と、死刑を執行される者、その側の立場、である。もつと具体的にいうと、検察や裁判官、弁護士の立場と、求刑、判決、出首をうける被告人の立場がある。



「何がなんでも」なのか！「反戦」というとき、侵略戦争と、解放戦争・革命戦争とは、区別されねばならない。…という意見がでたときも、戦争反対一反戦というとき「ごんごん場合でも」これは、ウリの虚言をめぐって、今更しはば去われてきた内容と同じ内容である。



場、刑法上の犯罪者の立場。そして裁く者と、裁かれる者の立場。支配と、被支配の立場、である。

この場合、弁護士は、なぜ検事や裁判官の側なのか。  
裁判官は、③にあげた原論議における「厳正中立、科学的に充分検討する」という立前における、科学者の立場と、とても相似していることに気付く。つまり、科学的に「法律的」とよみかさればそのまま通用する。

同様に弁護士の立場は、原論議における「代々木日共」の、是非々々に反対してあるのと、ほとんど要らない。その場合の「日共」の進歩と繁栄、その基礎となつて「科学」への信仰は、法的に維持されるべき社会秩序の信奉、それへの守りの役割であり、このようにしても、裁く側、支配する側にある。それ以上のものではない。

⑤ いう近もろく私をいましてに支配される側の者である。

「まさか自分が死刑になる、など思わないにしても、ひょっとしてたこと、裁かれるかもしれない側で、日々を暮らしているに違いない。その私たちが死刑廃止を言い、あるいは獄中者の救援をすすめようとしているとき、その立場は、おのずから「おのずから」改め「断るまでもなく」どちら側の立場か、は、はっきりしている。

にもか、わらず、前述の問題を問題として自分をひりかえること、かく然として自失するやうなことが見えてくる。

つまり、しばしば自分が、救援の論議などのなかで、裁く側の立場とその視点で、判断し主張したりしてはいないか。弁護士側、日共の立場に立つてはいないか。……

⑥ 世論が、同じような場合でも、死刑制度を廃止する、とてはならず、やはり必要な場合がある、という根拠は、二つの理由として、簡単に説明が出来る。

① 新内マスコミなどで煽情的に報道された、「おかしな殺人犯罪」などに対して、社会の不安や秩序の乱れのために、おかしな奴は……という社会的な論旨で、死刑を意見する立場。

② もし、これが自分や肉身に及ぶものだったら……思つてもおそろしい。こんな奴は死刑にしてもあつたらん、という、被害者の個人的感情での立場。

つまり、ただ世論をつくりだすときだけ、為政者たちに利用される市井二介の庶民にして、この①は、人心や治安の悪化をおこす、代議士や警察官などが、自分の口吻が、自身のものとなつていて、その、支配する側、裁く側の視点を、容易に免れていない、ということ。

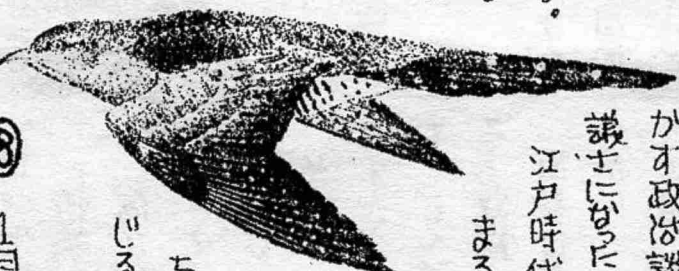
また、②については、自分が被害の当事者や近親でもないのに、「もしこれが自分……だったら……」とありかたえて、当事者になりかかつての、やはり「社会正義」を裏返すに「感情」の表現でしかないこと。といえ、新内マスコミで、被害者の近親者



イオム購読申込みは 60円切手を貼付して自分の宛名を記入して送付の封筒(半斤分約6枚)を添付して下さい。できれば、簡単に自己紹介や希望を添えて。紙代は無料ですが、時折、感想が送って下さるご返みにたいし、うれしい。(ま)

「はやく捕まえて死刑にして下さい」といふのはどうか、という反論があるかもしれない。当事者関係者が、犯人をハッ裂きにして、もう一度の世間の感情だ。だがそのうらみいかり、嘆息が、国家の手をかりて死刑にすることで簡単に終る、それほど単純なものか、(ほくは、理性で感情を抑えきれず、どうしても法の是非をおとて、相手に自ら復讐をせなければならぬ)というふうら、それは肯定する。だから国家の手には任せてを任せて(自分はずこしも手を汚さず)それで終り、とする立場は、やはり根底において、裁く側、支配する側に身をよせたものとなつてほかない。

⑦ いまは使わぬだろうが「床屋政談」ということばがある。横丁のハッちゃん龍さん、床屋で、新聞一面記事(たぐい)をやらが政治認識である。ところがその政治認識が、まるで大臣や代議士にだって天下国家を論ずるといふことになつてしまつたのは江戸時代からのことらしい。そして又私にしろ政治を論ずるとき、まるで為政者のように、この是非をしゃべつていふことに気付く。このように支配されているものなのかにも、支配する側の思想、視点はしひびこんでいて、しかも容易に気づかれないものとしてある。いんや反体制を称していても、とくに運動のなかで、私たちが、ともすると支配者の側の立場で、この是非を論じているという視点を、なかなか捨てることのできない!



⑧ 1月24日夜、死刑廃止の会の討論集会に出たら、水戸さんに指名されて十分たらずしゃべつた。そこでほくが強調したかったことは、私たちが裁く側、裁かれる側の、どちらに立つのか。しばしば私たちが裁く側の立場での発想や主張を、自分のなかに介在させながら、気付いていないのではないか。ということだった。この内容が出てくるころの底は深く、根は多岐である。

⑨ 例によって凡切れトホの短絡を許して、ちやうどはならない。支配する側、裁く側の根拠ともなるものは、何のなかで、「国家の思想」あるいは「支配」の思想と云ふべきものである。では支配される側、裁かれる側のそれは、と問われれば、はやくは即座に、それこそ「自主管理の思想」とと答えるだろう。そして、多種多様の異なる立場と見解をまたこの「自主管理の思想」の基礎の上にこそ保証されるものである。

国際人権センター・映画上映のタ  
8日(金)18時、北区の桜宮公会  
堂(地下鉄有楽町線下車)。「死  
刑があるがきりあなただの人はな  
い」のタイトルで、映画「真昼の  
暗黒」今井正・監督、鶴岡「人権  
と死刑」和島清吉・元日本弁護士  
連合会会長、カンパ六四門。主  
催、死刑制度廃止関西連絡センタ  
1 連絡先、向井さん  
(06-647-4080)

### 「死刑廃止」市民の会発足

大阪で学者・文化人ら  
「死刑制度廃止関西連絡センタ」で、詩人、大学教授、牧師、市議会議員ら約二十人が約一年半前から段々準備をすすめていた。アムネスティ本部が昨年、死刑絶滅へむけて世界的な運動を開始し、大阪府22、海軍第一ビル7Fの会をきっかけに、日本の世論の中で高まってきた死刑廃止論を、九、

実践に結びつけたいという。準備会の段階でも、死刑判決の可能性があると担当裁判官に個別的なアピールを行ってきたというが、正式発足により、さらに廃止キャンペーンを強化、盛り上げたといふ。

世話人の一人、詩人・向井孝氏

- 黒川芳正詩集 言 500円
- 宮本礼子詩集 見えるもの見えないもの、 500円
- 詩誌 コスモス 1981年2月号 500円

イオムで取扱っています。